

西百塚山19号墳の発掘調査

島根県教育庁埋蔵文化財調査センター
平成30年5月26日(土)10:00～

1. 西百塚山古墳群について

松江市大草町～八雲町に所在し、島根県最大級の「大草丘陵古墳群」の一角を構成する古墳群です。1960年に当時の松江高校によって、七曲古墳が^{ななまがり}発掘されていますが、大半の古墳は未調査です。近年は、松江北高校や当センターなどが継続的に測量調査・分布調査を行っています。

西百塚山19号墳は、松江北高校が2015～2016年に行った測量調査によって、直径約49mの円墳と分かりました。西百塚山古墳群では最大、出雲の円墳の中でも最大級です。今回、19号墳について古墳の築造時期や墳丘構造などを解明するために発掘調査を実施しました。

2. 今回の調査成果

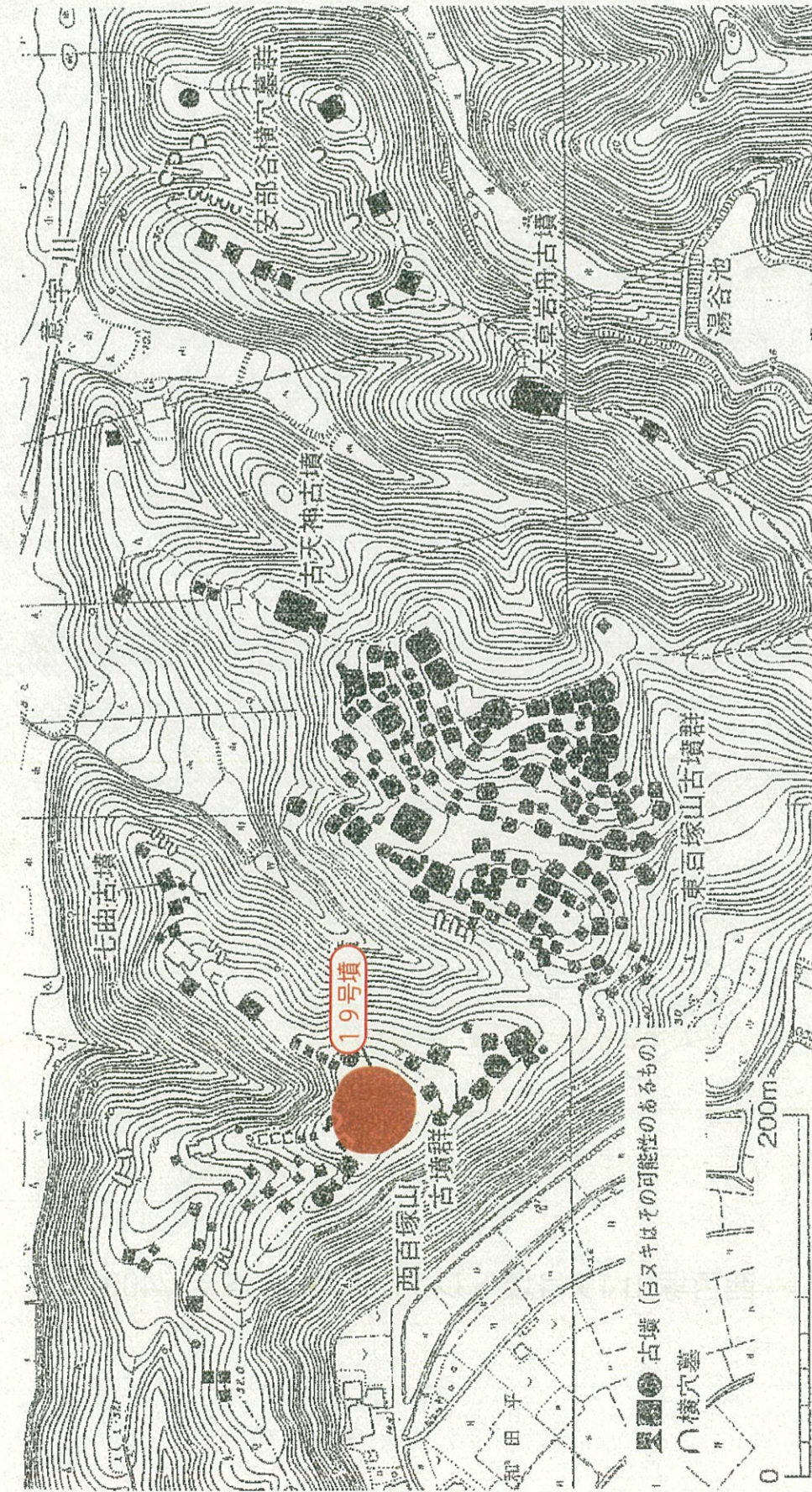
(1) 19号墳からは、埴輪片が約60点出土しました。円筒埴輪や朝顔形埴輪のほか、^{きぬがさがた}形象埴輪である蓋形埴輪と思われる破片も出土しました。出土状況から本来、埴輪は墳頂部に立て並べられていた可能性が高いです。また、19号墳は、出土した埴輪から古墳時代中期前葉～中葉(5世紀前葉～中葉)頃に築造されたと考えられます。

(2) 古墳の築造方法として、地山を削り出し、墳丘を成形していることが分かりました。また、土層の観察から、削られた地山の土は墳頂部分に盛土として利用されていることが分かり、古墳の外表を^{ふきいし}飾る葺石は、確認されず、19号墳は、葺石を持たない可能性が高くなるなど、19号墳の墳丘構造の実態を明らかにすることができました。

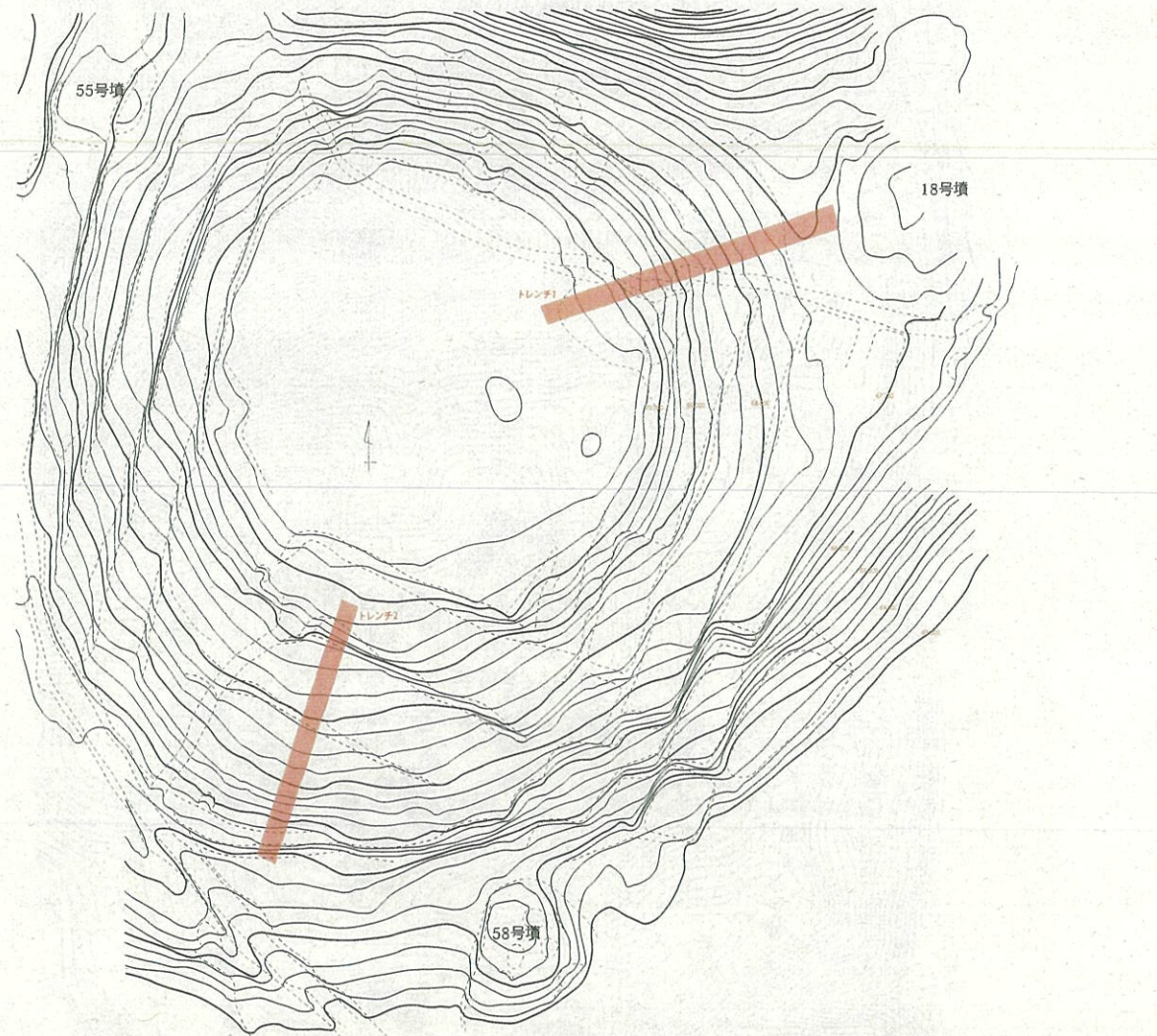
3. まとめ

今回の発掘調査で、西百塚山19号墳は、葺石を持たず、埴輪を墳頂部に樹立していた可能性が高いことが分かりました。西百塚山古墳群の中でも最も高所に位置し、古墳群の始祖的な古墳の様相が判明した意義は大変大きいものです。また、古墳群の形成過程や古墳時代の出雲における古墳の様相を知るうえで重要な資料になりました。

調査にあたり、地元や土地所有者の方々をはじめ、島根県立松江北高校歴史愛好会の御協力をいただきました。



西百塚山古墳群19号墳位置図



西百塚山 19号墳トレンチ配置図 (S=1/400)

年代	編年		指標古墳	意宇郡中央部		
	大塚 2002	畿内		大橋川南岸 (山代郷)	大庭・山代・有 (山代郷・大草郷)	大草丘陵
240	前I期	布留0	雷蔵	社日1号 ■ 19		小島谷3号 ■ 19
	前II期	布留1	西殿塚	観音寺1号 ■		
	前III期		桜井茶臼山			
300	前IV期	布留2	メスリ山	上竹矢7号 ● 64		東百塚山 ●
	前V期		佐紀陵山	■		
	前VI期		波谷向山	■ 58		
400	前VII期	布留3	津堂城山	社日2号 ■ 12	磯山2号 ● 12	
	中I期	布留4古 TG232 社	仲津山 上石津			
	中II期	TK216	養田御所山	井ノ奥1号 榎神堂 ■ 32 ● 35		西百塚山・西百塚山 ●
500	中III期	ON46	大仙陵	石屋 ● 42		
	中IV期	TK208	土師ニサンザイ 市野山		南外1号 ■ 20	好出平山 ●
	後I期	TK23 TK47	西ミサンザイ	井ノ奥4号 ● 47 竹矢野舟 ● 50	中竹矢1号 ■ 20 観音寺2号 ■ 15 オノ村1号 ■ 15	2号 ● 鹿神谷後谷 ● 西百塚山20号 ● 19

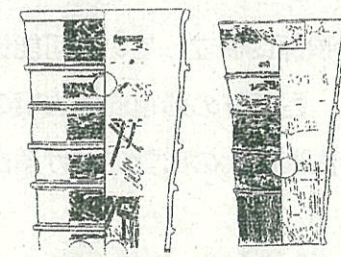
西百塚山 19号墳

- ④………葦石をもつもの
- ………少量の埴輪をもつもの
- ………大量の埴輪を並べるもの

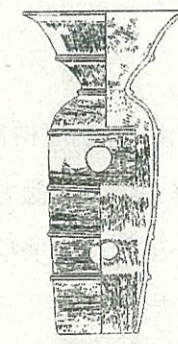
意宇平野の古墳編年表 (池淵2015を改変)

西百塚山 19号墳の位置付け

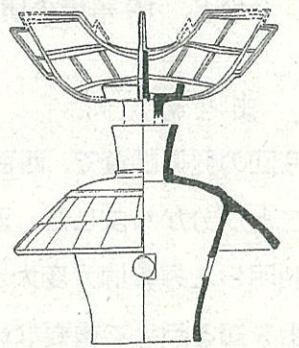
松江北高校歴史愛好会 2017 「西百塚山 19号墳－意宇平野に生きた豪族の証－」 『季刊文化財』 139号に加筆



久津川車塚古墳
室宮山古墳
円筒埴輪



室宮山古墳
朝顔形埴輪



津堂城山古墳
蓋形埴輪

(参考) 出土埴輪の例

円筒埴輪・朝顔形埴輪：廣瀬寛 2011 「西日本の円筒埴輪」 『古墳時代の考古学』 1 古墳時代史の枠組み 同成社より
蓋形埴輪：和田一之輔 2011 「形象埴輪の編年と画期」 『古墳時代の考古学』 1 古墳時代史の枠組み 同成社より